



石井 唯莉 (いしい ゆいり) 第一小 2年生

作品名：「がんばれ盲目の犬レディ」を読んで

図 書：がんばれ盲目の犬レディ

この本を読んで、私の家にも犬がいるので、「本当にそうだなあー」と、思うことばかりでした。それをいくつかしようかします。

一、犬はとっても頭が良い、楽しい時やほめられた時は、ちぎれんばかりにシッポをふって、よろこんだり、だれとでもなか良くしたがりです。わが家の犬も、私にべったりで、弟みたいです。

二、この本に出てくるレディという犬は、生まれつき目が見えません。

この本では、人間だって、耳が聞こえない、目が見えないなど、いろいろな不自由をかかえて生きている人もたくさんいて、いろいろな立場の人が手をかし合って、一緒に生きていることが大切と書いてあります。私も目が見えない人がいれば手をさしのべてあげ、耳が聞こえない人がいたら、聞こえる私がたすけてあげたいと思います。みんな、びょうきになるし、年をとって体が弱くなったりするので、困ってる人がいたらたすけてあげたいと思います。

三、犬をかうということ。

犬をかう、一つの命をあずかる、というのは、どんなびょうきになっても、どんなに弱っても、さいごまで、めんどろをみるけついがひつようです。それを人間の都合ですてるなんて、かうしかくなんてありません、動物をかう、というのは、すごくかくごがひつようです。私の家の犬は私が一才の時からいるので母に聞いたら、どんなことがあっても、さいごまでめんどろみるかくごで、かってるよ。とおしえてくれました。

私が大きくなって、動物をかう時は、それぐらいのかくごを持ってかいたいと思います。この本を読んで、動物はペットではなく家族なんだと、ずっと一緒にいたくても、命がみじかいことが分かり、家の犬（はるく）を今いじょうに大事にしたいと思いました。